

被災地の「今」発信

A M D A
フォーラム
3県商店主ら討論

岡山

東日本大震災から間もなく3年を迎えるのを前に、国際医療ボランティア・A M D A (本部・岡山市) の呼び掛けで、被災3県の仮設商店街のリーダーらが集い、復興を考えるフォーラムが2日、岡山

東日本 大震災

3周年

国際交流センター(同市北区奉還町)で開かれた。昨年初開催した復興グルメ大会について出席者は「被災地同士の協力を確認する場。応援されていることも実感できる。大会から被災地の今を発信し続けたい」と述べた。



東日本大震災被災地の仮設商店街のリーダーらが集い、復興について考えたフォーラム

A M D A は、震災直後から緊急医療支援を続ける。昨年1月に行う傍ら、岩手県大槌町での健康サポートセ

を集め、宮城県気仙沼市で復興グルメ大会を企画し成功。継続開催している。

フォーラムでは、大会に参加した岩手、宮城、福島県の計10団体の代表らが発表。気仙沼復興商店街(宮城県気仙沼市)の坂本正人副理事長は「再建を目指す商店街同士が仲間になったことが一番の成果。大会を励みに本格的な店舗再開に頑張

りたい」と強調した。「多くの人に評価され、原発事故の風評被害で失いかけていた自信が取り戻せた」とし

たのはT E A M南相馬(福島県南相馬市)の高橋秀典さん。「応援されていると実感した」「もうけはないが、皆さんと笑顔を共有できる」「大会で被災地の現状を伝えたい」など、前向きな感想が相次いだ。

全体討議では、進行役のA M D Aグループの菅波茂代表が「巨大地震で西日本が被災した際の復興を考えるフォーラムでもある」と指摘。石巻まちなか復興マルシェ(宮城県石巻市)の加原由佳さんは「被災者だから分かることがある。岡山がもし被災した場合は、可能な限り恩返ししたい」と支援を誓った。

(平田桂三)